

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール武蔵新城
○保護者評価実施期間	2024年10月15日～31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 35 (回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2024年10月15日～29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5 (回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月6日

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	よりよい支援を提供することができる。	職員のチームワークがよく連携がしっかりとれているからこそ、子どもの状況を丁寧に共有し、継続的・段階的な支援を行うことができている。また、保護者から園や家庭、他事業所の様子も伺えていることで、子どもを取り巻く生活全体の把握に繋がっている。そういった関係性が土台となって、子ども達が楽しく通い、成長に繋がっていると感じる。	職員、保護者、関係機関と連携を図り、子どものアセスメントを丁寧に適切に行い、一人一人に合った療育・支援の提供を実施していく。
2	作業療法士や公認心理師などの医療専門職の職員が在籍している。	作業療法士、公認心理師、保育士など、様々な専門職がいることで、専門性の高い視点からのアセスメントができ、療育内容に繋がっている。	それぞれの知識・スキル等を伝え合いながら、スクール全体の支援力アップに繋がっていく。
3	母子通所型の事業所で、保護者支援が可能な環境である。	マジックミラー越しに保護者が観察できるので、客観的に子どもの姿を捉えることができたり、振り返りの時間を通してすぐに共有することができる。活動の様子を共有するだけでなく、家庭での様子を聞きながら、対応方法を共に考えたり、プログラムに一部を取り入れたりなどしている。	引き続き丁寧なフィードバックを心がけ、子ども理解につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会やペアトレなどの保護者向けの研修が開催できていない。	対応できる職員がいなかったり、研修などを計画的に受講できていないことが要因である。	保護者会についてはニーズがどの程度あるのか改めて把握し、保護者へ働きかけ、開催に向けて取り組むことを検討する。 区主催のものをホームページなどから探し、発信していく。
2	地域の実態や関係機関など、広がりや限定性がある。	川崎市出身者の職員がいないので、経験や体験的なことについての情報は乏しい。	保育所等訪問支援事業を通して地域の小学校・支援学校の情報を把握できるようになれたらと思う。